

いの流水俳壇

間 浩太選

「当季雑詠」

文鎮は昇り龍なり筆始め

井上 郁子

(評)筆始めは書き初め又は試筆ともいうが、新年初めて書や絵をかくため筆をとることであり、現在は正月の二日に、書き初めをするのが多いとのことである。筆始めをするのに、昇り龍の彫刻、あるいは鑄物(鉄とか青銅)の文鎮を使用した、それが今年の干支の「たつ」である昇り龍であり、今年は何事も龍の昇るように、希望したことが達成できるように祈りを込めて書き初めされたことである。聞くところでは、この句の作者のお孫さんは、今年は大学(某名門の難関校)を受験されるとのことですので、作者は合格への祈りを込めて、書き初めされたと察します。

「必勝」とか、「祈合格」とか書かれたと思います。今年、合格されることでしょうか。

良き事のある予感して春を待つ

小野川町子

(評)春を待つころとは、はつきりした限定はし難いが、ほぼ冬の半ば過ぎからであるのか。

寒気は衰えを見せぬが、日の光にも何

となく変わった感じもして、たそがれの明るさにも、幾分か日脚が伸びた感じがありますのが、春を待つ気持ちです。

二十三年はいろいろな出来事がありました。二十三年はいろいろな出来事がありました。二十三年はいろいろな出来事がありました。

来春は良きことの多い年であるように、作者とともに願いまししょう。作者に予感がありましたら間違いなく良いことがありますよ。

肩よせて姉妹見せあう初みくじ

刈谷 志津

(評)初詣のときに「おみくじ」を社殿で姉妹が引いたときの情景が目につかびます。

「わたしは中吉」、「わたしは吉」と肩を寄せ合って話し合う仲の良い姉妹を、この句の作者は微笑みながら見ていたのでしょうか。よく「私を見なや」、「私を覗いたらいかん」と争うのを見ますし、また「私は中吉」「私は吉」と、比べ合つて自慢する情景があるのですが、この姉妹の仲の良いのは微笑ましいことです。この作者やご両親の躰の良さが偲ばれます。お年玉も多くもらったことでしょうか。今年も良い年になることでしょうか。

初日記りかうか過ぎるまとめ書き

川村 博子

(評)新しい年度の日記帳に初めて書くのを初日記というが、白い清潔な日記帳の第一頁に年頭の所感も書き添えると、格別の思いがする。しかし、正月の主婦は

多忙であるので、正月の一月一日を記入するのは容易でないと思います。うかうかしなくても記入できない日もあります。私も、この作者のようにまとめ書きをするのですが、残念ながら忘れやすく昨日のことを日記に書こうとしても、何をしたか思い出せないことが多く、まとめ書きも難しい老人です。この句の作者は、まだ若いのでまとめ書きもできるでしょう。

日記をつけている人の心理が分かる句だと同感しました。

こんな句もあります。

すぐそこに傘寿来ている牡丹の芽 松尾満津於
故知らず祠に家訓の注連結ぶ 友草 水月
朝風呂は年の始めの許し事 岡村 嘉夫
未来から届くものあり初日の出 大川 節弥
粥を炊く老夫の摘み来し七草で 竹崎 光子
病み上がりつつ無事過ぐ初詣 田蔦恵美子
年男第二の人生スタートだ 森岡 照月
野に摘むはセリとナズナや七日粥 片岡 包女
切られしが生き延びピンクの芙蓉かな 弘瀬うき子
暮らし向き中くらいなり懐手 竹崎たかひろ
初鴨のふくらみ水面さらさらす 津田 久美
テレビ消しストープ消して今日を消す 間 浩太

次 題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月五日

投句先
社会教育課

いの町3597
893-2012

今月のことも川柳

お日さまが登ってくるよ 初日の出

伊野小5年 甲藤 遼夏
(評)句を読むだけで初日の出の様子が浮かんできます。中でもお日さまが「登ってくる」と読むことで、お正月らしい川柳となりました。素敵です。

うす目あけ ふとんの中で サンタまつ

長沢小3年 黒石 輝明
(評)サンタさんのプレゼント待ち遠しいですね。正直で素直な子どもたちの気持ち「うす目をあけ」ての子どもごころ。うれしくなってくるいい句です。

どんぐりは ぼうしかぶつて おしゃれさん

川内小5年 野口 朱莉
ねんがじょう メールだけで かなしいな
伊野小5年 田村 優希
ふつうの日 だけど先生 なぜスーツ?
川内小5年 金子明香里
帰りみち とりの家から いいにおい
川内小3年 高宮 莉奈
雪が散る わたあめみたい 食べちゃった
伊野小5年 杉本 篤駿
たのしい 雪のふらない 冬休み

雪集め おこった母さん 冷ますんだ

伊野小5年 新谷日南乃
クリスマス 家ぞくみんなで かざりつけ
川内小2年 筒井 咲希

※「ことも川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。24年度初回提出締め切りは5月17日(木)です。たくさんの方の皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。